

# 「いいねー！」合言葉に議論重ねた4日間

福島の中学生招き「九州サミット in みなまた」



㊤不知火海をバックにみんなで記念撮影  
㊦真剣なまなざし  
㊧クリスマスに頑張る中学生のためにくまモンがサプライズで登場

「中学生九州サミット in みなまた ~我が地域に勇気の一步を!~」が、熊本県芦北町の「あしきた青少年の家」で12月22日から25日に開催されました。熊本県・水俣市・福島県・福島市・郡山市・伊達市・国見町の各教育委員会が後援しました。

始まりは、東日本大震災で風評被害を受けた福島県に対し、水俣病で同様の経験をした水俣市PTA関係者が提案して、双方の中学生同士が復興や地域貢献について話し合う機会を設けたことでした。その後、有志で構成される福島・水俣教育交流実行委員会（委員長・中村慶

治さん）が主催し「中学生九州サミット」となりました。ベルマーク財団もこの活動を支援しています。福島、水俣、佐賀から計50人の中学生が参加しました。

専門家や経験者らの「講話」を聴き、それをもとに話し合う「熟議」が繰り返される形で進行し、そのテーマは多岐にわたりました。

福島第一原発に足を運んだ天野良文さんは、写真を見せて「水俣病はうつりますか？放射線はうつりますか？」と問いかけ、「無知」が風評や差別につながることを訴えました。

水俣病の語り部である杉本肇さんは、

家族が発病し、“奇病”と言われていた時期に“患者のウチ（家）”とレッテルを貼られた経験を伝え、それでも希望を捨てないことの大切さを語りました。

「熟議」では、班ごとに意見をまとめます。意見を聞いたあとは、合言葉「いいねー！」を使って元気づけ反応することで場の雰囲気を盛り上げました。

水俣第二中学校2年の濱田佳子さんは「講話を聞いたら、私たちにも出来ることがある、それを実行していくことが大切だと分かりました。」と語り、今後の抱負として「生徒会でいろんな意見を出していきたいです」と話しました。

実行委員長の中村さんは、挨拶で「正しい情報を発信、と言葉で言うのは簡単。でも自分の目や耳で確認する作業を怠ると、風評を生み新たな被害者をつくりまします。水俣病も原発事故もそれが原因で、人々が傷つき、未だにその傷は癒えません」と話しました。中村さんは保護者としてPTA活動をしている際に両者の共通点を見出し、故郷に誇りを持つことの大切さを伝えたいと思って、交流の実現に尽力してきました。

サミットを支えた大人たちの思いはしっかりと生徒の心に届いたことでしょう。

## 浜松市の老人ホームでマークの仕分け会

あいおいニッセイ同和損保が市内24図書館で収集

浜松市の老人ホーム「浜名湖エデンの園」で12月18日、ベルマークの仕分け会が開かれました。協賛会社のあいおいニッセイ同和損保（ベルマーク番号92）が、市内の全24図書館に収集箱を設置して集めたマークです。

同社は2017年暮れに浜松市と包括連携協定を結び、その一環として昨年1月からベルマーク収集を始めました。同3月には社会福祉法人聖隷福祉事業団の協力を得て「浜名湖エデンの園」で仕分け作業をし、6月には市内の障害児・者施設にマーク2万余点を寄贈して

います。

2回目となるこの日の仕分け会には入所者10人に加え、園長の宮原成信さんと園スタッフ、あいおいニッセイ同和損保の内田勝司浜松第一支社長、喜多村誠之浜松支店担当課長ら計18人が参加しました。「コツをつかむと楽しい」「慣れればスピードがあがる」などと会話しながら、みな一生懸命手を動かしました。宮原園長は締めあいさつで「本日は大変有意義な時間を過ごせました」と述べました。今後さらに集計を進め、最終的にマークは市内の団体に寄贈される予定です。



みんなで仕分け作業

## 地域の協力呼びかけマーク寄贈

鳥取県朝日会、米子市の小学校に

朝日新聞の販売所でつくる鳥取県朝日会がベルマーク1万8924点を米子市立就將小学校（児童数約350人）に寄贈しました。新聞購読者らに呼びかけて約2年がかりで集め、集計も販売所長らが手がけました。

朝日会と朝日新聞鳥取総局が中心になって進める教育支援プロジェクト「鳥取子どもみらい応援団」の一環。同校が長年ベルマーク運動に積極的に取り組んでいることから寄贈先を選びました。小椋和彦会長とASA米子中央の田中英雄店長らが学校を訪れ、上村一也校長に手

渡しました。

創立110周年を迎える同校は校舎改修工事の真っ最中。上村校長は「備品類を買い換える必要がある中、自由に使えるベルマークの寄贈はありがたい。学校だよりなどで紹介し、学校のベルマーク運動をより活発にしたい」と話しています。

鳥取県朝日会は売上金の一部を福祉施設に寄付したり、子育て講演会を開催したり、様々な教育支援活動に取り組んでいます。



上村一也校長（左）にマークを手渡す鳥取県朝日会の小椋和彦会長